

自然の災害に負けないために(大雨にそなえる)

大雨による洪水などからわたしたちを守ってくれるのは、堤防・排水機場・砂防施設・ダムです。また、台風による高潮から守ってくれるのは高潮堤防です。この役割を考えてみましょう。



堤防

山や平地に大雨が降ると、降った雨は多くの小さな川の水を集め水の量も増し、ふだんのときと比べ大変高い水かさとなります。堤防は、この高い川の水を防ぎ家や田畑を守るものです。



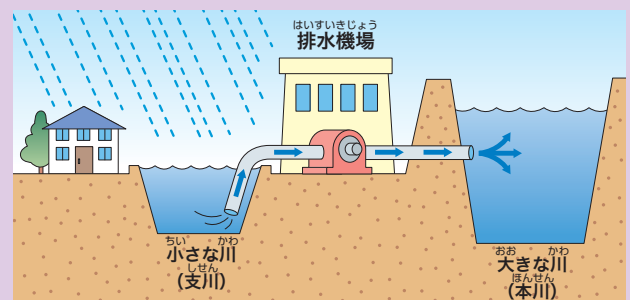
木曽川右岸松蔭地区高潮堤防



木曽川の堤防

水門と排水機場

木曽三川の水の量が増えると小さな川に水が逆流してきます。それを防ぐのが水門です。しかし、水門を閉めると、水がたまり家や田んぼが水につかってしまいます。そのたまった水をはき出すのが排水機場です。



鍋田上水門



高須輪中排水機場

指導のねらい 私達の暮らしが堤防・ダム・排水機場等の施設で守られていることを認識するとともに、市・役場・町の人々の取り組みを知る。

大雨による洪水などから、私達を守ってくれるのは、堤防・排水機場・砂防施設・ダムです。また、台風による高潮から守ってくれるのは高潮堤防です。

学習のポイント

- ・流水による災害を防ぐために、堤防・水門・排水機場・ダムにはどんな工夫がなされているかを知る。
- ・下流部の安全は上流のダムによって守られていることを知る。
- ・ダムは洪水防止の他に利水（各種用水、水力発電等）を目的とすることを知る。

堤防

山や平地に大雨が降ると、降った雨は多くの小さな川の水を集め水の量を増し、普段の時と比べ大変高い水かさとなります。堤防は、この高い川の水を防ぎ、家や田畑を守るものです。

堤防の役割とその概要

「堤防」は、江戸時代の宝暦治水や、明治改修など古い歴史を持ち、河川堤防は土手の表芝張りが一般的です。堤防の目的は洪水があふれ出るのを防ぐことですが、平常時には憩いの場として河川に親しむ拠点であることも大きな役割といえます。

堤防は構造や材料から、土堤、石堤、コンクリート堤、コンクリートブロック堤など、目的別に、溢流堤、横堤、高潮堤、導流堤、背割堤、霞堤などに分類されます。通常の河川堤防は盛り土で築かれています。

高潮堤防とは

高潮を防ぐ海岸堤防を高潮堤防といい、その特徴は、表法、天端、裏法の3面コンクリート被覆にあり、計画堤防高さは＝台風期の平均満潮位＋台風時の最大偏差＋波高＋余裕高と定められています。（木曾三川河口で7.50m）ここで、偏差は気圧による吸い上げ分、波高は吹き寄せ分によります。

水門と排水機場

木曾三川の水量が増えると周辺の小さな川に水が遡ってきます。それを防ぐのが水門です。しかし水門を閉めると、水がたまり家や田んぼが水につかってしまいます。そのたまった水を吐き出すのが排水機場です。

洪水を防ぐダム

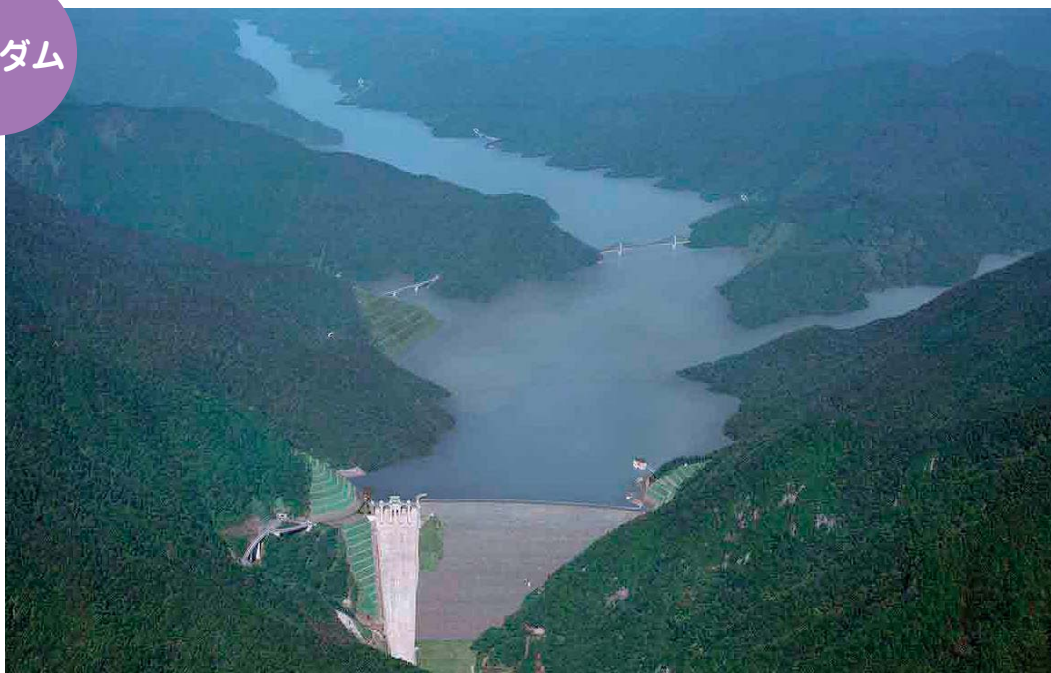
ダムは、わたしたちの住む土地を洪水から守るために、川の上流で洪水の一部をためて、下流の洪水の量を減らしています。木曽川・揖斐川の上流部にもダムがあり、下流域のみなさんのためにがんばっています。



まるやま
丸山ダム



とくやま
徳山ダム



ダムに行って、見学しよう

水門と樋門

水門は洪水時又は高潮時にゲートを全閉することで、本川の水の逆流を防止します。

沿岸部に設置される水門は、ゲートを全閉することにより高潮及び津波時に堤内地への波の進入を防止する重要な施設です。

堤防の中にコンクリートの水路を通し、そこにゲートを設置する場合、樋門または樋管と呼びます。

排水機場

豪雨時に堤防で守られた内側の水（内水）をポンプによって、河川または水路に排水するために、河岸または堤防付近に設けられる施設を排水機場といいます。排水機場施設が整備されて以来、輪中ではたまり水が排水できるようになり、農業基盤の大幅な改善がされるようになりました。



高須輪中排水機場

洪水を防ぐダム

P-28

ダムは、私たちの住む土地を洪水から守るために、川の上流で洪水の一部をためて、下流の洪水の量を減らしています。木曽川・揖斐川の上流部にもダムがあり、下流域の皆さんのために頑張っています

丸山ダム

丸山ダムは木曽川の、岐阜県八百津町と御嵩町との境に 1955 年完成した高さ 98.2m の重力式コンクリートダムで、治水と水力発電(12.5 万 kw)を目的としたダムです。丸山ダムは完成以降木曽川の治水に大きな役割を担い、1959 年 9 月の伊勢湾台風においても十分な洪水調節機能を果たしました。1983 年の美濃加茂豪雨災害の時は計画規模を超える記録的な洪水に見舞われ、丸山ダムの洪水調節による水位低下が図られましたが、続く洪水によって洪水調節機能の限界に達してしまいました。そのため、異常洪水時防災操作により、流入量を超えない範囲での下流への放流が行われました。現在丸山ダムはダムの機能を増強するためにダム嵩上げにより新丸山ダムを建設する再開発事業が行われています。

徳山ダム

徳山ダムは 2008 年に完成したロックフィルダムで、堤高 161m は国内 3 番目、総貯水容量 6 億 6 千万 m³ は国内最大です。水害常襲地帯である揖斐川の治水と東海 3 県の水瓶として、洪水調整、流水の正常な機能の維持、新規利水、発電と複数の目的を合わせ持つ多目的ダムです。揖斐川の洪水被害は横山ダムと徳山ダムの連携操作によって軽減されるようになりました。

ダムへ行って見学しよう

自然の災害に負けないために(大雨にそなえる)

木曾三川の工事などを行う事務所では、川が氾濫しないようにしたり、台風による高潮が堤防をこえないようにしたりするために川の工事を行っています。また、堤防のようすを調べ古くなった施設を直す工事などを行い、災害に備えています。



川の工事

堤防のはばを広げ、高くする工事をしています。



ひ管をがんじょうにする工事をしています。



川の水が多く流れるよう川底を掘る工事(しゅんせつ工事)をしています。



堤防のようすを調べ・直す工事

パトロールなどによって堤防などのようすを調べ、直す工事をしています。



大きな災害への備え

伊勢湾台風のような大きな災害がおきると広い地域に影響が出ます。このため、水につからない高さで、広い作業をする場所をつくっています。ここには、大きな災害に備えるため多くの大きなブロックなどをたくわえることとしています。



河川防災ステーション(揖斐川右岸城南)

木曽三川の工事などを行う事務所では、川が氾濫しないようにしたり、台風による高潮が堤防を越えない様にしたりするために、川の工事を行っています。また、堤防の様子を調べ、古くなった施設を直す工事などを行い、災害に備えています。

学習のねらい

- ・ 私達の暮らしが安全にできる様に行われる河川工事を知る。
- ・ 洪水時に備えて、普段から行われている河川パトロール点検作業のことを知る。
- ・ 大きな災害について知り、災害に備えた地域の取組を知る。

川の工事

堤防拡張・かさ上げ、しゅんせつ・河道掘削工事

河川水を計画高水位以下で安全に流下させるために必要な河道断面積を確保するべく、引堤（セットバック）や堤防のかさ上げ、河道掘削などの必要な整備を行い洪水の水位低下対策を行います。

堤防のはばを広げ、高くする工事



水門・樋門・樋管の整備

洪水時にゲートを開閉することによって堤防機能を発揮する水門の工事は、木曽岬町加路戸で鍋田上水門の改築が行われています。今後も木曽川では木曽岬町源緑輪中の排水機樋管の改築他の工事が計画・実施されています。

ひ管を頑丈にする工事



高潮堤防補強

高潮による災害の発生防止と軽減のため、木曽・長良・揖斐川の河口部を高潮区間として高潮堤防補強工事が行われています。

堤防の様子を調べ直す工事

河川のパトロールなどによって堤防などの様子を調べ、直す工事をしています。

河川法で、1級河川は国土交通大臣、2級河川は都道府県知事が管理すると定められています。河川巡視（パトロール）は河川の適正な利用、災害の未然防止、流水機能の維持他を図るため、堤防等の異常発見を行い、災害などの未然防止を図るための活動を行っています。



水防倉庫

水防活動は、すばやく活動をしなないと、こわれたところがどんどん広がっていきます。堤防を直すため、川のそばに「くい」、「なわ」、「ブルーシート」、「どのう袋」など材料がおさめられた水防倉庫があります。



サイレン・スピーカー

サイレン・スピーカーは、災害がおこりそうになったときや災害がおこったときに、市町村から情報をいち早く知らせるものです。



水防演習

水防演習は非常時に備えて、作業の練習をすることをいいます。この練習をしっかりとっておかないと災害時の作業がうまくできません。



人々の工夫

濃尾平野では昔から、災害から命を守るため水屋などによる工夫がされています。これは、今にも伝えられ、高い土地をつくり、その上に家がつくられています。



みずや
水屋



げんざい う くふう
現在も受けつがれている工夫

大きな災害への備え

伊勢湾台風のような大きな災害が起きると広い地域に影響が出ます。このため、水につからない高さで、広い作業をする場所を作っています。ここには大きな災害に備えるため多くの大きなブロックなどを貯えることとしています。

非常時に、緊急用資材を備蓄しておく他、ヘリコプターの離発着などの必要な作業面積を確保し、市町村の水防活動の支援や災害時の緊急復旧基地「河川防災ステーション」を各所に作っています。

水防倉庫

P-30

水防活動は、素早く活動しないと、壊れたところがどんどん広がっていきます。堤防を直すため、川のそばに「くい」、「縄」、「ブルーシート」、「土のう袋」などの資材が納められた水防倉庫があります。

他に、杭、麻袋、スコップやのこぎり等の道具が定期的に検査して収納されています。海津市高須輪中には 23 箇所の水防倉庫があります。



サイレン・スピーカー

災害が起こりそうになった時などに、市町村から情報をいち早く知らせるものです。

大雨による危険が予想される時や、堤防が決壊の恐れがある場合に広報車や自治体からの電話・伝令、防災行政無線によるスピーカー放送やサイレン信号が鳴らされますので、住民は危険な状況を認識し、正しい避難行動をとる必要があります。

水防演習

水防演習は非常時に備えて、作業の練習をすることをいいます。この練習をしっかりとっておかないと災害時の作業がうまくいきません。

地域の消防団・水防団は台風接近時や、集中豪雨時に、堤防のパトロールに出て、崩れかかった箇所や水漏れの有無等を細かく点検し、異常がある場合は緊急の水防活動を行います。

人々の工夫

濃尾平野では昔から、災害から命を守るため水屋などによる工夫がされています。これは、今にも伝えられ、高い土地を作り、その上に家が作られています。輪中では、母屋よりも高く石垣が積まれた「水屋」、水屋を持たない人達の共同避難所「助命壇」などがあります。



自然の災害に負けないために(土砂災害にそなえる)

川の上流から多くの土や石が川に出てくると川底が上がり、川にとってとても危険な状態になります。砂防施設は、川の上流の山くずれなどによって、大雨により水といっしょに運ばれてくる土や石による災害を防ぐ施設です。これら施設は、木曽三川の上流部でたくさんつくられています。



土砂災害から地域を守った砂防えん堤などのようす

川の上流から多くの土や石が川に出てくると、川底があがり、川にとって大変危険な状態になります。砂防施設は、川の上流の山崩れなどによって、大雨により水と一緒に運ばれてくる土石流災害を防ぐ施設です。これらの施設は木曽三川の上流部でたくさん作られています。

学習のポイント

- ・土砂災害への備えを知る。
- ・砂防施設各種について知る。

集中豪雨により山腹の土砂が崩れ、土石流が流下したところを、砂防堰堤と遊砂地で堰き止めることにより、家屋などの倒壊を守った様子。

（小滝砂防堰堤 三重県いなべ市）



木曽川流域における砂防事業

木曽川は流域周辺の地形が急峻であることに加え、中央アルプスの山々の風化が著しく、もろい地質のため、絶えず新たな土砂災害の危険が潜んでいる地域です。木曽川上流では昭和41年6月、南木曽災害を引き起こしました。木曽川下流では昭和7年8月に四ツ目川上流域で大崩壊が発生し、土石流が中津川市街地を襲うという災害が発生しました。



四ツ目川災害の状況

もし、砂防堰堤がなかったら大変なことに

上松町に平成元年3月滑川第1砂防堰堤が完成し、同年7月に集中豪雨により上流で土石流が発生しました。20万m³にも及ぶと推定される土砂は堰堤によって堰き止められました。砂防堰堤が完成前であったら、大変な事態となっていたと推測します。



国土交通省 多治見砂防国道事務所

砂防堰堤（えんてい）とは、洪水時に上流から流れてくる土砂をくい止め、その後少しずつ下流に流す施設のことです。

さぼうしせつ 砂防施設のイロイロ

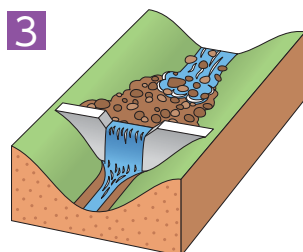
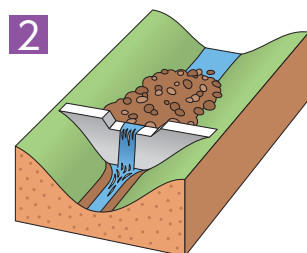
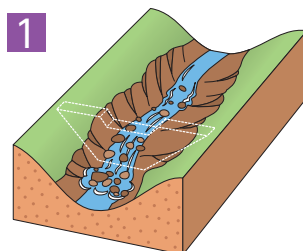
砂防施設には、大雨が降ったときなどに流れてくる土砂をためることで、土砂災害を防ぐ砂防えん堤などがあります。また、こわれた山の斜面を、さくや壁をつくったり、木を植えたりすることで土や石の移動を防ぎます。

1 砂防えん堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出てしまいます。

2 砂防えん堤をつくと、上流から流れてくる土砂をため、川の勾配もゆるくなって兩岸の山の斜面の崩壊を防ぐことができます。

3 大雨などにより土砂が流れ込んできた場合、砂防えん堤はさらに多くの土砂を一時的にためます。

4 一時的に砂防えん堤にためられた土砂は、その後の川の流れてによって徐々に下流へと流し出され、2の状態に戻ります。



よつめがわ りゅうこう きふけん なかつがわし
四ツ目川流路工 (岐阜県中津川市)



はねだに さぼう てい きふけん かいづし
羽根谷砂防えん堤 (岐阜県海津市)

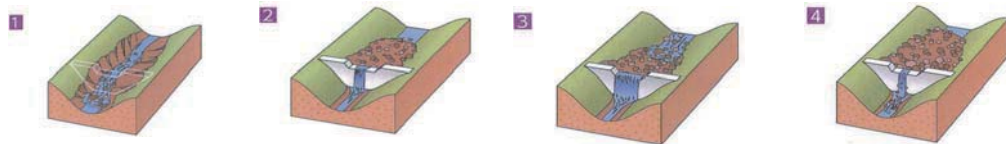


じごくだに だい さぼう てい きふけん なかつがわし
地獄谷第4砂防えん堤 (岐阜県中津川市)



ちか さぼうしせつ
近くに砂防施設がないか、
しら
調べよう

砂防施設には、洪水時などに上流から流れてくる土砂をため、その後少しずつ下流に流す事により土砂災害などを防ぐ「砂防えん堤」などがあります。また、壊れた山の斜面に柵や壁を作ったり、木を植えたりすることで土や石の移動を防ぎます。



1. 砂防堰堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出してしまうます。
2. 砂防堰堤を造ると、上流から流れてくる土砂がたまり、川の勾配がゆるくなって兩岸の山の斜面の崩壊を防ぐことができます。
3. 大雨などにより土砂が流れ込んできた場合、砂防堰堤はさらに多くの土砂を一時的にためます。
4. 一時的に砂防堰堤にためられた土砂は、その後の川の流れによって徐々に下流へと流し出され 2. の状態に戻ります。

中部地方の主な砂防施設

四ツ目川流路工（岐阜県中津川市）

木曽川流域は土砂の生産が活発な地域であるため、昭和 7 年の四ツ目川の大災害、昭和 28 年の南木曽土石流災害、昭和 41.42 年の南木曽災害など度重なる土砂災害を被ってきました。四ツ目川流路工は中津川市など流域内の市街地・集落を土砂災害から保全する施設です。



四ツ目川流路工（岐阜県中津川市）

羽根谷砂防堰堤（岐阜県海津市南濃町）

羽根谷は昔から土石流の多発地帯で、羽根谷の巨石積み堰堤は明治 20 年に着工され、翌年完成しました。堰堤の規模は、高さ 12m、堤長 52m で、人頭大から等身大の切石を空積みで仕上げており、現在でも狂いが無いことに、当時の技術水準の高さが伺えます。この施設は登録有形文化財に指定されています。



羽根谷砂防えん堤

地獄谷第 4 砂防堰堤（岐阜県中津川市）

スリット型砂防堰堤は、流水の流下を助け、流木や巨石を受け止めることに特化させる目的で建設されます。



地獄谷第4砂防えん堤（岐阜県中津川市）

近くに砂防施設がないか。調べよう

自然の災害に負けないために (台風や洪水にそなえる)

災害のときの被害を少なくするためには、ふだんから家のまわりの川や水路などの危険性について家族で話し合ったり、台風などが発生した場合の準備をしたりすることが大切です。

特に台風は、強い風が吹き、大雨が降り、河川の増水やはん濫、海での高潮が発生することが考えられます。「風」、「洪水」、「高潮」に注意しましょう。

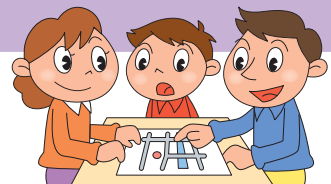


ふだんからの備え

- ・河川や海岸、台風、大雨に関する情報の意味を知っておきましょう。
- ・家の周りの河川や海岸、水路などの危険性を確かめておきましょう。
- ・避難に関する情報と避難場所や避難の道順を確かめておきましょう。

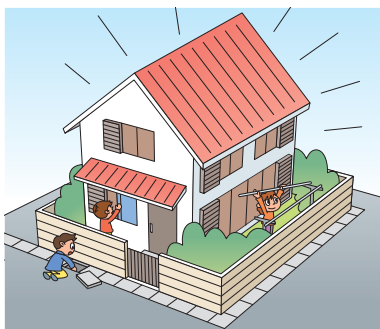
台風が来る前に

台風が接近しているときに家の外に出るのは大変危険です。テレビなどの台風情報を見て家族で話し合いをしましょう。



●家の外の備え

- ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけましょう。
- ・みぞなどは、そうじをしておきましょう。
- ・風で飛ばされそうな物は、飛ばないようにしておきましょう。



●避難場所の確認

- ・避難場所や避難の道順を確認しておきましょう。

●家の中の備え

- ・懐中電灯、薬、衣類、貴重品、食料、水などを準備しておきましょう。



指導のねらい 自分の命は自分で守る、自分自身で行動できる様にするためにどうしたらよいか、家族で話し合うことの大切さを説く。

災害の時の被害を少なくするためには、普段から家のまわりの川や水路などの危険性について家族で話し合ったり、台風などが発生した場合の準備が必要です。特に台風は、強い風が吹き、大雨が降り河川の増水や氾濫、海での高潮が発生する可能性がありますので、「風」、「洪水」、「高潮」に注意しましょう。

学習のポイント

- ・ 早めの避難が重要であることを実感させる。
- ・ 日頃から、台風が来る前、危険が迫った時など段階に応じた備えと行動を確認します。
- ・ P57～60 で防災に必要な情報の入手手段を学ぶ。

ふだんからの備え

- ・ 河川や海岸、台風や大雨に関する情報の意味を知っておきましょう。
- ・ 家のまわりの河川や海岸、水路などの危険性を確かめておきましょう。
- ・ 避難に関する情報と避難場所や避難時の道順を確かめておきましょう。

台風が来る前に

台風が接近している時に家の外に出ることは大変危険です。
テレビなどの台風情報を見て家族で話し合いをしましょう。

●家の外の備え

- ・ 窓や雨戸はしっかり鍵をかける。
- ・ 溝などは掃除しておく。
- ・ 風で飛ばされそうなものは飛ばない様にする。

●避難場所の確認

●家の中の備え

- ・ 懐中電灯、薬、衣類、食料、水、貴重品などを準備する



・ 懐中電灯、薬、衣類、貴重品、食料、水などを準備する。



早めの準備が基本

早めの準備に心がけ、危険な時に外で作業などすることがないようにすることが大切です。ふだんから非常用品を用意しておき、持ち出しできるようにしておきましょう。非常用食料は最低でも3日分は必要です。（救護・救助までに3日ほど要する場合が多いからです）

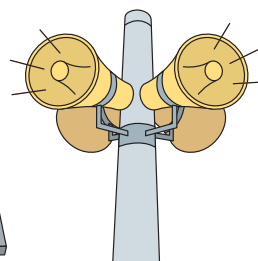
台風が接近しているとき

- テレビなどで台風情報を聞く
- 水の増えた川や水路、崖くずれがおりやすい所など危険な場所に近づかない
- 避難の準備
市町村や町内会からの情報と避難場所までの道順や協力体制などについて確認しておきましょう。



大雨が降り続けてきたら

テレビやパソコンなどによって川の情報を集めましょう。
市町村などからの川や地域の情報を集めましょう。



危険を感じたら

テレビなどによって川の情報を確かめましょう。
市町村などからの川や地域の情報を確かめましょう。

- 避難
・危険を感じたり、避難の指示があったら、すばやく避難しましょう。
- ・避難の前に、必ず火を消しましょう。
- ・持ち物は必要な物を最小限にして、リュックサックなどに入れましょう。



浸水時に避難する場合は、ロープなどで体をつなぎ、棒を持ち、地面をさぐりながら避難しましょう



「台風や洪水にそなえる」をもっと知りたい人は

57～60 ページを見よう!

地域みんなで災害を防ぐ

地域住民みんなが防災意識を高めるために、日頃の防災訓練に参加することは大切です。ふだんから、過去の災害について知っておくと共に、ハザードマップで災害の起きそうな場所と避難場所を知り、避難経路を数カ所選んでおき、暗闇でも平気なように道は何度も歩いておきましょう。避難時のことを考えて、隣りの人や、向かいの家族のことも知っておくと良いでしょう。

台風が接近している時

P-34

- テレビ・ラジオなどで台風情報を聞く。
- 増水した川や水路など危険な場所に近づかない。
- 避難の準備



大雨が降り続いてきたら

テレビやパソコンなどによって川の情報を知る。
市町村などから川や地域の情報を知る。

危険と感じたら

- 避難
 - ・ 危険を感じたり、避難の指示があったら素早く避難する。
 - ・ 避難の前に必ず火を消す。
 - ・ 持ち物は必要なものを最小限リュックサックなどに入れる。



浸水時に避難する場合は、棒を持ち、地面をさぐりながら避難する。

あせらず冷静に、想定外のこともあり得ると考える

忘れ物をして後から取りに行くようなことがないようにしましょう。
避難所に向かう途中では、避難経路を確認した時には無かったような、マンホールが空いたり、用水路に足をすくわれたり、危険なものが隠れていたりすることも想定し避難しましょう。

自然の災害に負けないために (地震にそなえる)

大きな地震が発生すると、家がたおれ、火事が発生したりします。がけくずれや山くずれも発生します。家などがこみあったところでは、大きな火事になることもあります。特に、地震によるゆれが長く続くと、海でおこった地震で津波が発生することもありますので、早く高いところへ逃げるのが大切です。



ふだんの備え

■ 高い家具の固定



指導のねらい 地震は何の前触れもなく突発的に起こるので、備えが不十分で平静さを失いがちとなることを理解する。

大きな地震が発生すると、家が倒壊し、火が発生したりします。崖崩れや山崩れが起きます。家等が混み合った市街地では大きな火事になることもあります。特に、地震による揺れが長く続くときは、海溝型の地震で、津波が発生することもありますので、一刻も早く高いところへ避難することが大切です。

学習のポイント

- ・大地震の時、どんな災害が起こるのか日頃から考える習慣をつくる。
- ・自分の命を自分で守ることの基本は日頃の備えである。
- ・日頃から家族間で、非常持出、連絡方法、避難方法などの話合いが大切である。

ふだんの備え

■高い家具などの固定

地震の揺れで家具などにはさまれたり、食器など家具の中にあるものが飛び出してケガをすることがあります。



家具の固定

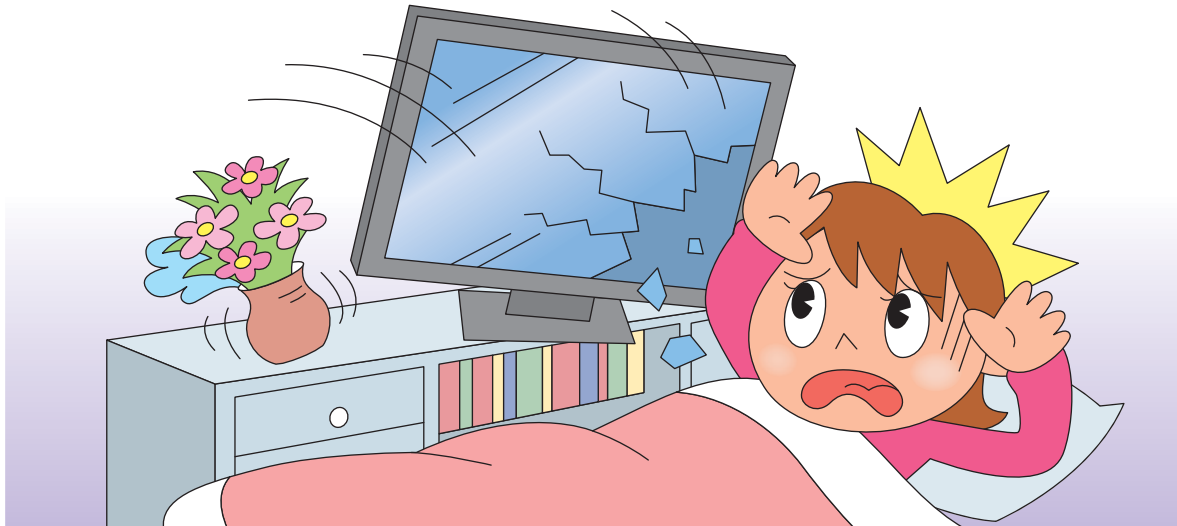
- ・壁への固定はL型金具で止める。
- ・積み重ね家具は平型金具で連結する。
- ・扉はとめ金具でロックすることにより、食器などの飛び出しを防ぐ。
- ・壁に穴があげられない場合はポールを使用する。
- ・家具の足下に敷くストッパーは端から端まで敷く。

■テレビの近くで寝ない。

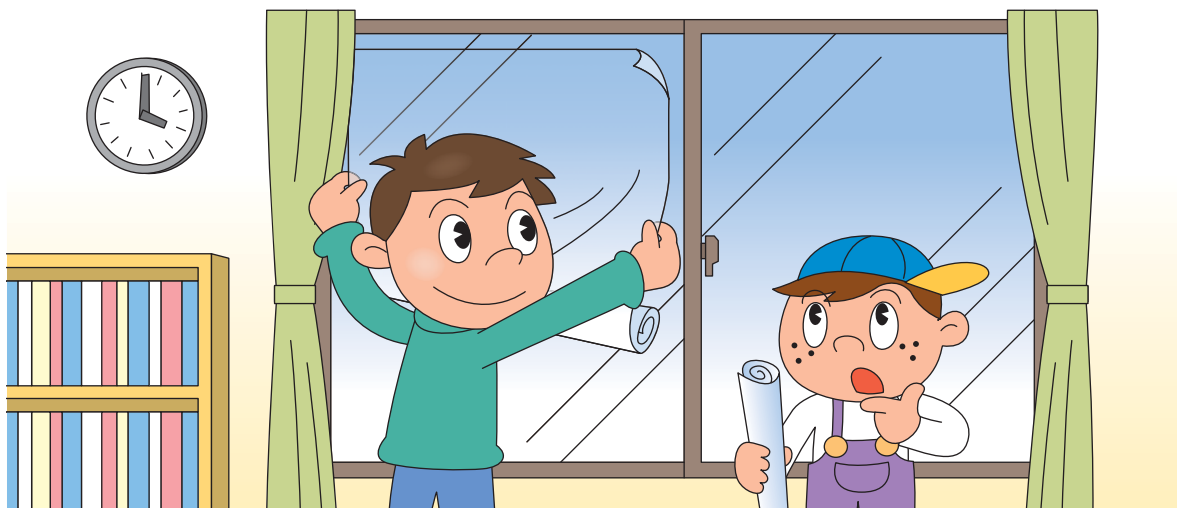
液晶型テレビは軽くて転倒、移動しやすく、以前のテレビ（ブラウン管型）は大変重くて危険です。



■テレビの近くで寝ない



■窓ガラスの飛びちり防止



■テレビや市町村からの情報を正しく聞く



- 薬、手回しのけいたい電灯、ビニール袋など
- 避難場所や道順を知る

- 3日分の食料や水の用意
- 衣類や雨具

■窓ガラスの飛び散り防止

窓ガラスは物が当たらなくても、大きな地震で割れる恐れがあります。

飛散防止フィルムを貼りましょう。



室内の安全対策

1. ふだん使っている場所の周辺には背の高い家具を置かないようにし、固定する。
2. 家具の上にはガラス・アイロンのような危険な物や、テレビなどの重い物を置かないようにする。
3. 家具の配置を見直す。

■テレビや市町村からの情報を正しく聞く。

■非常持出品の用意

薬とお薬手帳、手回しの携帯電灯、ビニール袋等

3日分の食料や水

衣類や雨具

非常持出し品と備蓄品

地震が起こった時の非常持出し品と避難生活のための備蓄品は違います。非常持出し品は避難に必要な物品や貴重品に限りましょう。

水・食料品は日常的に多く備蓄し、定期的買い換えて、古くなったものから順に使用しましょう

■避難場所や道順を知る。

複数の避難経路を確認することが大切です。

いのち まも こうどう 命を守る行動

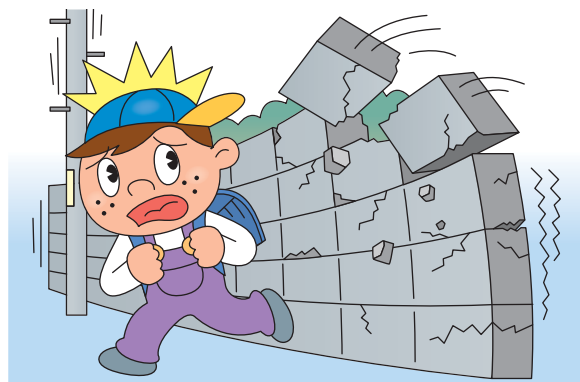
- いえ なか ぼうさい
家の中いたら、防災ずきんや
ざぶとんで頭を守る



- あわてて外へ飛び出さない
だいどころ ひ はついていたら消す



- いえ そと たてもの
家の外いたら建物やブロックべい
はな あんぜん ばしょ に
から離れ、安全な場所へ逃げる



- うみべ はや たかい
海辺にいたら、早く高台やがんじょうな
うえ かい に
ビルの上の階に逃げる



- ちかがい ちか おとな しじ
地下街にいたら、近くの大人の指示にしたがう

かぞく れんらく 家族への連絡

- かぞく しゅうごうばしょ れんらくほうほう
家族みんなで集合場所をきめ、連絡方法をきめておく
さいがいようでんごん つか かた し
■ 災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を知っておく
(「171」をダイヤルし、音声ガイダンスにしたがって伝言・再生を行ってください。)

だいじしん ひ じゅんび
大地震がおきたらどうしたらいいか、日ごろから準備をしたり、
かぞく はな あ たいせつ
家族でよく話し合っておくことが大切です。



じしん し ひと
「地震にそなえる」をもっと知りたい人は

63・64 ページで勉強しよう！
べんぎょう

命を守る行動

P-37

■家の中にいたら、防災ずきん・ヘルメット・座布団で頭を守る。

机やテーブルの下にもぐる。ゆれがおさまってから避難する。



■ゆれが収まったら火を消す。あわてて外に飛び出さず、玄関ドアを開けて様子を見る。

落下物や転倒物に注意する。



■家の外にいたら、建物やブロック塀から離れる。

自動販売機には近づかない。



■海辺にいたら、早く高台や頑丈なビルの上の階に逃げる。

津波警報等が解除されるまで避難を続ける。



■地下街にいたら、近く大人の指示にしたがう。

家族への連絡

■家族みんなで集合場所を決めておき、連絡方法を決めておく。

■災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を覚えておく。

地震が起きた時は、家族や知人などに連絡をとるため、多くの人が一斉に電話をかけるため、電話がつながりにくい状況になります。そんなとき役立つのが「災害用伝言ダイヤル」です。災害用伝言ダイヤルは、災害の発生後にシステムが稼働し、家族の安否確認や集合場所の連絡などに利用することができます。

そんな時はまず「171」をダイヤルし、音声ガイダンスにしたがって伝言をします。(録音の場合は「1」を、再生の場合は「2」を押します。すると、ガイダンスが目的の電話番号を市外局番からダイヤルするよう流れます。

もしものときに備えて日頃から「171」活用の方法を相談しておきましょう。

家屋の倒壊防止と耐震診断

建物の耐震化は必要に応じ実施しましょう。特に昭和56年改正以前の旧耐震基準で建てられた建物は耐震診断を受けましょう。

大地震はいきなりやってくるので、その時どうしたら良いか、日頃から準備を怠ることなく、また、家族でよく話しあっておくことが大切です。